

日 時	平成19年8月18日(土) 午後2時00分～3時30分			
場 所	下笠居コミュニティセンター			
出席者 (市)	市長	市民政策部長	総務部長	財務部長
	健康福祉部長	病院部長	環境部次長	産業部長
	都市整備部長	消防局長	水道局次長	教育部長
	文化部長			
	事務局 8人			
市 民	53名			
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 資料等説明 4 意見交換 			
意見交換 市民	<p>下笠居コミュニティセンター建設にあたり、関係職員の方にはお世話になり、ありがとうございました。西部地区に自然をいかしたコミュニティセンターが完成することを非常に楽しみにしている。</p>			
市民	<p>下笠居地区の道路整備について、平成5年から香川県消防学校の誘致運動を実施し、平成17年に開校している。また、ヘリ輸送基地や備蓄倉庫などを備え、大災害時の県の防災拠点としての機能を有している。ただ、進入道路が浜街道から県総合運動公園を回るルートのみで、消防学校のところで行き止まりになっており、災害時に一箇所だけの進入路では機能がいかされないのではないかと。また、神在の鼻は瀬戸内海を一望できるすばらしい眺望を要した場所でもある。財政状況は厳しいだろうが、神在の鼻を周遊して浜街道へ抜ける道路整備を推進してほしい。県にも要望しているので、県と協力してほしい。</p>			
市長	<p>防災の道路整備について、生島地区には県総合運動公園があり、アイランドリーグなどにより通行量が増加したほか、イオンができたこともあり、道路渋滞がひどくなっている。防災拠点としての機能を持つ消防学校に繋がるルートが1本で十分なのか検討するほか、災害時の避難・運搬通路の確保のためにも、市としても真剣に検討していく。</p>			
市民	<p>生活排水処理について、県は平成14年度に生活排水処理構想を掲げている。旧高松市では平成16年度末で約56%の普及率であり、公共下水道区域の整備は東部地区で約90%、西部地区で約55%の普及率と聞いている。市街化地域では下水道整備が進んでいる。また公共下水道と併せて合併処理浄化槽を整備しているが、平成17年度末で約7,800戸が整備されている。ただ、下笠居地区は汲み取りや単独処理浄化槽の整備、また最近では合併処理浄化槽の整備をしているが、十分でないため、</p>			

住吉川や亀水川の水質が悪化しており、藻が発生するなど、子どもが遊べない状況である。亀水地区では農業集落排水構想があるが進展していないし、合併処理浄化槽の整備も個人任せとなっている。行政と地域が一体となった下水道整備を推進してほしい。旧仲南町や旧寒川町では、合併処理浄化槽地域は総合的に計画し、実施している。市の財政が厳しいなら、地域と一体的となり、計画的に整備してほしい。また、経済的かつ効率的な整備といった観点から、香東川流域では塩江地区から香西地区まで管路は約 30 km だが、下笠居地区は約 5 km であるため、費用面からも検討してほしい。市の構想では、公共下水道区域と合併処理浄化槽区域が位置づけられているが、計画的に推進してほしい。

次に、住吉川の早期改修について、平成 16 年の台風 23 号では床上・床下浸水や農地冠水、堤防決壊などにより多大な被害を受けている。当河川は県の管理であるが、県と一体となって推進してほしい。また、住吉橋が越水して通行できなくなったことから、災害時のためにバイパス的な道路整備をしてほしい。

最後に渇水問題について、小さな河川の簡易水道を復活させて活用してほしい。ボーリング技術なども向上していることから、地域で水が確保できる施設整備も考えてほしい。

市長

生活排水処理について、市では下水道整備を進めており、年々普及しているが、全国的に比べて遅れているため、マニフェストでも早急に全市域の合併処理浄化槽を含めた下水道化を進めることを掲げている。今後、促進方策等について具体的に検討していきたい。市では旧市街化区域は公共下水道、旧市街化調整区域は合併処理浄化槽で対応しているが、合併処理浄化槽の整備は個人が設置するものの助成を行うことから個人任せになるので、面的な整備が難しいため、農業集落排水の手法や市が合併処理浄化槽を設置し、手数料で回収する手法などを含めて検討していきたい。基本的には、全市域の下水道施設が完備するように進めていきたい。

次に住吉川の改修について、平成 16 年の台風災害では多大な被害を受けたことを教訓にして防災対策を推進していきたい。施設改修については、県と協議して進めている。予算の関係もあるが、優先順位の高い公共事業のため、県と連携して早期改修に努めたい。

次に渇水問題について、昔の簡易水道や井戸水の利用については、非常時に利用できる環境を整備する必要がある。今年は小学校や各家庭の井戸水を活用したが、水質検査により安全性を確保するなどの体制を整備したい。

ただ、今年の場合、平成 6 年の渇水時に香川用水の依存比率が高かったことを踏まえて、合併前は自己水源と香川用水の依存比率を 5 対 5 まで上げたが、合併により市域が拡大しているほか、塩江町以外の 5 町については 100% 香川用水依存であったため、全市域では自己水源比率が 4 割となっている。そのため、早明浦ダムの貯水率が減少すると、市域全体で節水を強化しなければならないため、今後はより多くの自己水源を確保し、依存比率を 5 対 5 まで上げたい。

その方策の一つとして、桜川ダムの建設を進めており、これにより日量 9,000 t が確保できるが、完成まで 10 年ほどかかる。そのため、香東川の伏流水の利用について市議会から提言があったため、水質の調査なども本格的に行って自己水源の確保を図っていく。合わせて、非常時に簡易水道や井戸水の利用も検討していきたい。

<p>関係部長</p>	<p>また、下水道処理水の利用促進を図り、トイレや水撒きに利用するなど、全体の水循環対策も検討して対応していきたい。</p> <p>下水道について、現在、香川県と県内の市町が一体となり、全県域生活排水処理構想を策定している。それに合わせ、各市町は生活排水推進計画を策定している。人口の増大や家屋の密集度など地域の特性を考慮し検討していく。</p> <p>また住吉川について、道路を含めて県へ要望していく。</p>
<p>市民</p>	<p>高松駅前周辺について、駅の東の乗降用駐車場が狭いので拡張してほしい。駅の南側が空いているので、そこを拡張できないか。</p> <p>また、バスターミナルにはトイレがないので設置してほしい。高松の玄関でありながら、利用者にとって不便であるので早期に改善してほしい。</p> <p>次に、県営球場について、野球の試合があると混雑し、渋滞するため、先ほどの神在の鼻を通る道ができると渋滞が緩和されるので、積極的に検討してほしい。</p>
<p>市長</p>	<p>高松駅前の駐車場整備について、拡大するだけでは問題が解決するとは限らない。用地確保の問題もあるが、県や JR に対して要望するとともに、連携して利便性が高くなるように検討していきたい。</p> <p>バスターミナルのトイレについて、関係者も検討しているが、制約等もあり、まだ実現していない。</p>
<p>関係部長</p>	<p>バスターミナルのトイレについて、バスターミナルは法律上道路になるため、建物が建てられなくなっている。休憩所は利便性を考えて建てられているが、トイレは景観上の問題もあるため、設置が難しい。</p> <p>なお、東側のエレベーターから降りたところに、地下駐車場のトイレがあるので、案内板などの設置を検討していきたい。</p>
<p>市民</p>	<p>コミュニティセンター建設にあたって、次の3つの点について提言したい。</p> <p>一つ目は、環境負荷の低減と人口減少社会への対応について、ソーラーシステムの導入や外壁の緑化など、近年、これらの技術が進歩しているので、ぜひとも活用し、環境に優しい建物にしたい。また、地下水や雨水なども利用し、環境に配慮するとともに、人口が約30%減少すると推計されていることや厳しい財政状況にも配慮して、ランニングコストも約30%減少させたい。</p> <p>二つ目は、高齢化社会への対応と防災機能の強化について、南海大地震に備え、防災拠点の消防署との防災無線の性能を高め、双方向通信ができないか。また、免震・制震システムの導入により、耐震性能も高めたい。そのほか、コミュニティセンターが地区の防災拠点としての役割を果たし、衣食住できる仕組みを機能設計に取り込みたい。</p> <p>三つ目は、長期保障について、CSR（企業の社会的責任）の発想に基づいて、50年利用する仮定の下、メンテナンスにも競争原理を働かせるため、設計者・施工者・請負者の3者連名でメンテナンス計画も入札時の見積りの対象にしたい。物価スライドによる調整は必要だが、請負業者者に責任を持って、それにコストをつけても</p>

<p>市長</p>	<p>らい，発注者はそれらを総合的に判断して採択したい。このように，コストの裏づけのある 50 年ほどの長期保障はできないか。</p> <p>新しくコミュニティセンターを建設するにあたり，環境負荷の低減や将来の維持管理費，防災拠点としての機能の確保など，様々な点を考慮しなければならない。これからの施設は，人口減少や高齢化が進展する中で，建設費より将来の維持管理費を考慮して建設することが重要なため，場所などの物理的制約や予算制約などはあるが，その範囲内であれば，地域の要望を取り入れていきたい。ただ，できれば地域で要望をまとめて提出してもらいたい。</p> <p>次に，防災通信について，コミュニティセンターは地域の防災拠点であり，広域避難場所の指定もしているため，今後，防災通信の仕組みのあり方についても見直していきたい。</p> <p>また，香西にあるイオン高松店と防災協定を締結し，災害時に避難場所や駐車場として利用でき，商品等も優先的に供給してもらえる。その中で，災害時にコミュニティセンターが防災拠点として，どういう対応をできるか考えていきたい。</p> <p>次に，CSR について，コミュニティセンターは防災拠点でもあるため，基本的には行政が責任を持つべきである。ただ，その中で維持管理等を効率的にするため，民間との契約の工夫をできるか検討していきたい。</p>
<p>関係部長</p>	<p>下笠居のコミュニティセンターについて，今年度に用地買収，基本設計・実施設計を行い，平成 20 年度に建設を開始する。</p> <p>地域の人々の要望をワークショップや香川県建築士会のコンペなどを参考にしてまとめ，提出してもらい，それに基づいて市が基本設計を行う。</p>
<p>市民</p>	<p>地域分権について，国では地方分権，市では地域分権を進めており，昨年 4 月から全ての公民館がコミュニティセンターになっている。連合自治会は市の広報配布やごみ収集など，市とのつながりが強く，地域のまちづくりは連合自治会が中心としてやらなければならないと思うが，地域によっては混乱が起きており，連合自治会の中でも温度差がある。今後どのように地域分権を進めていくのか考えを教えてください。また，補助金を一本化する時もいろいろな意見があったと聞いている。行政内部の意思統一も行なってほしい。</p> <p>また，地域や高松市が活性化するには，若い人の力が必要なため，青年会の育成を考えてほしい。</p>
<p>市長</p>	<p>地域分権について，基本的には，個人・家庭でできるものは個人・家庭で行い，個人・家庭でできないものは地域コミュニティで行い，地域コミュニティでできないものは市がサポート，または，直接行うといった考えである。ただ，現在は過渡期であるため，地域により混乱をきたしている地区もあるが，基本的には現在の分野ごとの縦割りの組織をコミュニティ協議会といった地域ごとの横割りの組織で統合していく。地域のことを地域で解決するためにコミュニティ協議会を基本的な組織とし，その中で話し合いをして，新しいものを展開してもらいたい。財源についても，分野ごとの補助金ではなく，包括的な補助金，または，将来的には交付金へ</p>

<p>関係部長</p>	<p>と移行したい。</p> <p>市の組織も8月1日から企画課を市民部に移管し、市民政策部をつくり、コミュニティが全体の中心になるようにした。これにより、コミュニティを軸とした協働のまちづくりを推進したい。</p> <p>青年会活動について、最近、若い人たちはNPOやその他の団体で活動しているので、市としては、青年会にこだわらず、いろいろな活動を支援していきたい。</p> <p>昔は青年団体があり、団体が集まった青年団体連絡協議会もあったが、現在は青年連絡会となっており、高松市では20数名しかいない。合併町でも活動していたのは2、3ヶ所である。そのため、青年会だけではなく、その他の様々な団体を支援していきたい。</p>
<p>市民</p>	<p>県の消防学校は前市長が災害時に利用できるように協定を締結しており、衣食住ができるようになっているので利用してほしい。</p> <p>また、子どもの教育について、PTAに母親部があったため、お父さんを参加させるために父親部を立ち上げた。自治会やPTA活動に協力するほか、地域行事の応援等を行なっている。それが発展して、おやじの会ができた。県内で30ほどあり、さぬきおやじ連合ができているほか、全国サミットも開かれている。今年は文部科学省からの支援もあり、県の教育長から委嘱され、立ち上げの支援を行っている。青年会とは違うが、このような活動もある。</p>
<p>市長</p>	<p>県の消防学校との協定について、今後とも周知をお願いしたい。</p> <p>また、男女共同参画社会の実現をするために、女性の社会進出を支援するとともに、男性の子育て・教育への参加を促進するように取り組んでいただくようお願いするとともに、市としても応援したい。</p>